

プレゼン用自己紹介シート

愛知大学 地域政策学部

地域政策学センター副センター長 戸田敏行

ご自身の研究領域などについて

(地域政策学部)

- ・公共政策、地域産業、地域文化、まちづくり
健康・スポーツ

(個人)

- ・地方都市における地域計画、越境地域計画
- ・地域整備におけるPPP ・社会的企業育成

愛知大学 戸田先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

(大学)

- ・愛知大学・三遠南信地域連携センター設立(2005年)
 - ・南信州・壳木村にて、愛知大学地域づくりサポーター活動(2005年～)
 - ・南信州広域連合と愛知大学の連携協定締結(2007年)
 - ・南信州セカンドスクール事業協力(2009年)
 - ・豊橋技術科学大学・愛知大学「県境を跨ぐエコ地域づくり研究会」共同研究(2006年～2010年)
 - ・南信州・飯田フィールドスタディーへの愛知大学生参加(2010年～)
 - ・愛知大学経済学部にて、飯田副市長特別講義(2011年)

(個人)

- ・三遠南信地域に関する諸事業、三遠南信地域連携ビジョンの策定
- ・リニア将来構想検討会議
- ・地域社会雇用創造事業(内閣府)による人材育成

愛知大学 戸田先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

- ・広域地域経営のモデル性

南信州地域→三遠南信地域→東海地域

- ・ソーシャルビジネスの育成、人材育成の土壤

ソーシャルビジネス創生システム、人材許容性

- ・小さな世界都市機能の可能性

人材ネットワーク、広域インフラ、地域文化の総合

愛知大学 戸田先生 ③

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

(地域政策学センター)

- ・名古屋圏に対する南信州農産品流通(経営学部)
- ・中山間地における生活エリアの公共交通機能
- ・中山間地の集落維持政策
- ・タウンプロモーション手法 等

(個人)

- ・県境地域の広域連携モデル
- ・ソーシャルビジネスと定住

愛知大学 戸田先生 ④

研究領域

- ・結晶性高分子フィルムの延伸による変形機構
PET フェニレンスルフイド ポリブタジエンなど
- ・繊維の染色加工
インテリア繊維製品の加工(防炎加工 樹脂加工など)
- ・カシミア繊維の物性
モンゴルカシミア山羊
- ・フェアアイルニットなど編み込みニット の制作

飯田女子短期大学 川上先生 ①

飯田とのかかわりや活動について

- ・短大の生涯学習センターでの教育活動の展開
- ・飯田生まれの飯田在住

飯田の評価や価値について

- ・豊かな自然
- ・民俗芸能の宝庫
- ・果物を中心とした農産物

飯田女子短期大学 川上先生 ②

飯田における今後の関心事項について

- ・地域の歴史や文化の生かし方
- ・農村の再生と自然の整備

飯田女子短期大学 川上先生 ③

【研究領域と研究の内容】

人形劇と子ども・教育

- ・観客の行動反応を取り入れた作品分析
- ・幼児教育現場での人形劇活用の意義

伝統人形劇の伝承

- ・伝統人形の伝承～今田人形・黒田人形～

文化活動とコミュニティの構成

- ・飯田市における文化行政とまちづくり
- ・伝統人形芝居の伝承とコミュニティの再構成

飯田女子短期大学 松崎先生 ①

【飯田とのかかわりや活動について】

「いいだ人形劇フェスタ」

- ・実行委員会プランニングスタッフとして、年間を通したフェスタの企画運営に参加。
- ・竹田人形座竹の子会座員として、飯田女子短期大学指導者として、上演参加。

地元人形劇の活性化

- ・いいだ人形劇まつり「りんごっこ劇場」実行委員会代表。
2005年より、毎年2月に「りんごっこ劇場」を開催。

「人形劇のまちの将来を考える会」

- ・研究者として、地元人形劇人として参加。(2011年6月～)

市民として

- ・働き、暮らし、遊ぶ。

飯田女子短期大学 松崎先生 ②

【飯田の評価や価値について】

伝統芸能の宝庫

- ・さまざまな伝統芸能の継承によるコミュニティの構築

「いいだ人形劇フェスタ」

- ・国内外の人形劇関係者にとってのメカ的存在
- ・市民にとってのアイデンティティ

総合的な地域活性化へのビジョンや取組みの弱さ

- ・「人形劇のまちづくり」への多角的な取組み

【飯田における今後の関心事項について】

- ・少子高齢化におけるまちづくり

- ・飯田市の考える「市民参加」のまちづくり

飯田女子短期大学 松崎先生 ③

プレゼン用自己紹介シート

大阪市立大学都市研究プラザ
特任講師 堀口朋亨

ご自身の研究領域などについて

- ・経営経済学
- ・人的資源論
- ・国際経営
- ・組織間協働研究など

大阪市立大学 堀口先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

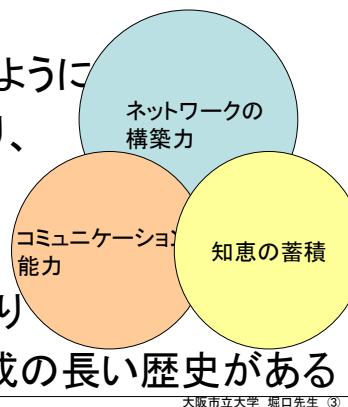
- ・CCS(City, Culture and Society)という国際学術誌の編集に関わっているため、地域マネジメント・都市マネジメントの分野の研究を進めてきた。プロジェクトの戦略目標を達成するための地域内・地域間協働やガバナンスのあり方に興味がある。飯田に初訪問した2008年以降、飯田の持つ歴史的・地勢的・人的可能性に関心を持ってきた。

大阪市立大学 堀口先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

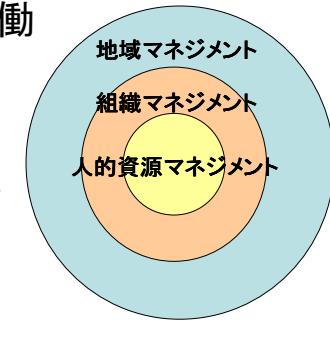
- ・文化的蓄積があり、それが有効に活用されている。
- ・ドイツの有力な地方都市のように適切な人口規模の街であり、創造の場としての価値を有している
- ・天竜川や高速道路・鉄道より他地域とのネットワーク形成の長い歴史がある



プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

- ・文化行事における組織間協働
- ・非営利組織と企業などの協働のあり方
- ・飯田市全体のマネジメント
- ・飯田に行ける「知恵」の蓄積と活用法
- ・他地域との共同
地域マネジメントのあり方



プレゼン用自己紹介シート

関西大学 文学部
教授 野間晴雄

ご自身の研究領域などについて

- ・人文地理学
- ・湿潤アジア地域研究
 - ・とりわけ稲作社会の比較研究、技術史
- ・日本では近畿、九州、沖縄、新潟がフィールド
- ・東アジア文化交渉学(グローバルCOEプログラム)→東アジア型エコツーリズム



関西大学 野間先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

- ・2010年度の「地理学・地域環境学専修」の実習調査地として飯田を選定
- ・学生30名(3回生25名・大学院生5名)+教員2名+ティーチングアシスタント1名=33名
- ・『長野県飯田市の地理(地理学実習書35)2010年度』の刊行、250部印刷・配布
- ・ベトナム人大学院留学生が夏のセミナー参加
- ・2名が学位論文の一部として飯田をとりあげる(学会発表2回、歴史地理、エコツーリズム)

関西大学 野間先生 ②

報告書でとりあげた内容

- ・天龍峡周辺の地形と水害 川路周辺
- ・農業とグリーンツーリズム 旧下久堅村柿野沢
- ・飯田市の観光—天龍峡の再生
- ・飯田市の半生菓子工業 地場産業の一環として
- ・飯田城下町の空間構造とその変容 歴史地理
- ・中心市街地の活性化とまちづくり
- ・飯田市の郊外化と中心市街地の再生
- ・飯田市の公共交通の現状と将来の方向

関西大学 野間先生 ③

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

- ・中山間地域が多いが、車を利用する限り不便は少ない→交通弱者をどうするのか
- ・地域の重層的・ネットワーク的連携
- ・市役所・南信州観光公社などの職員のやる気 と柔軟性
- ・域外(関西・中京・首都圏) との人を通じたネットワーク形成
- ・若い人をターゲットにして未来につなげる
(小中高校生・大学生の活用、先生の活用)

関西大学 野間先生 ④

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

- ・都市＝農村交流の新しいモデル
- ・リニア新幹線開通を見据えた地域の戦略
- ・多様な自然・生態系をもった盆地・山地空間
→ 多様な土地利用、複合経営の分析
- ・高齢者と若者との対話・交流
→ 公民館活動の再評価、旧村分立と統合
- ・多様な「食育」の場としての飯田市
→ 市田柿、りんご、野菜、山菜、養蚕の復元、鯉、
食虫慣習、米(棚田)、工業や農産加工品も視野に



関西大学 野間先生 ⑤

プレゼン用自己紹介シート

京都外国语大学外国语学部

講師 高島知佐子

ご自身の研究領域などについて

- ・伝統芸能上演組織の研究
- ・家元制度の収益システムに関する研究
- ・ボランティア活動の支援業務に関する研究
- ・伝統文化を生かしたまちづくり

京都外国语大学 高島先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

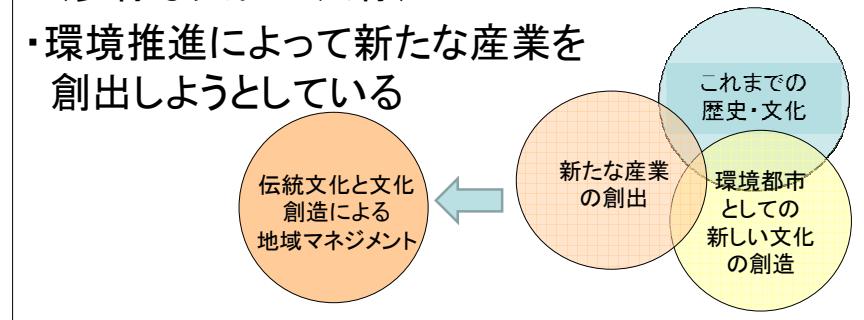
- ・大阪と神奈川の人形浄瑠璃の上演組織に関する研究を通して、人形芝居が盛んな飯田市に関心を持った。多くの地域で芸能が衰退する中で、なぜ飯田市では盛んに活動が続けられているのか？
- ・京都市のまちづくり研究から、文化と地域住民、行政、企業の関係に関心を持つように。地域住民、行政、企業間の相互理解の場を生む地域文化と地域マネジメントを考えていく。

京都外国語大学 高島先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

- ・伝統的な文化を維持しつつも、新しい文化が生まれてきている。
(多様な文化の共存)
- ・環境推進によって新たな産業を創出しようとしている

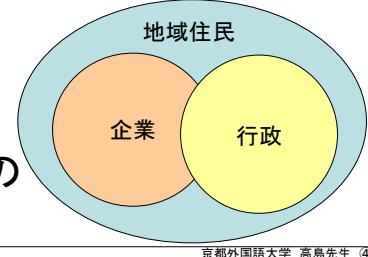


京都外国語大学 高島先生 ③

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

- ・新たな文化が創られていく中で、どのように地域の文化を維持し、融合させているのか。
(地域文化資源が豊富な地域のまちづくり課題)
→地域住民(またはNPO)と企業、行政の協働によるネットワーク形成
(つながりが相互理解・融合の場をつくる)
- つながりを作る場としての地域文化活動



京都外国語大学 高島先生 ④

プレゼン用自己紹介シート

信州大学工学部電気電子工学科
教授 田中 清

ご自身の研究領域などについて

★専門は情報通信・情報処理分野

・電子透かしに関する研究

画像や音声などのマルチメディアに知覚できない情報を埋め込み、利用を図る技術
⇒コンテンツの著作権保護、改ざん防止、秘匿通信などのセキュリティに利用

・進化計算による多目的最適化の研究

生物の遺伝と進化を模の過程を工学的にモデル化して構築された新しい計算方法
⇒多数の目的関数を含む複雑な最適化問題の解法や学習に優れた性能を発揮

・スマートグリッドに関する研究

高度ICT技術により、電力の需要と供給を正確にモニタリングし、人工知能技術によってシステム全体の効率や信頼度を自律的に制御し、電力の安定供給を実現
⇒太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用と高度な情報技術が鍵

信州大学 田中先生 ①

プレゼン用資料1

信州大学および工学部紹介

- ・長野県内の5つのキャンパス、8学部からなる総合大学

《松本》本部、医学部(付属病院)、理学部、人文学部、経済学部
《長野②》工学部、教育学部 《上田》繊維学部 《南箕輪》農学部

学生数 約11500人、教職員数 約2,400

- ・工学部は7つの学科で構成

機械システム工学科、電気電子工学科、土木工学科、建築学科、物質工学科、情報工学科、環境機能工学科

⇒工学の幅広い専門知識を有する創造性豊かな人材の養成。工学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材の育成

★新技術開発、産業界との連携(共同研究)を積極的に推進

信州大学 田中先生 ②

プレゼン用資料2

飯田における今後の関心事項について

- ・文理融合学術連携拠点

- 複数大学が参加する文理融合による知の拠点作り

- 独自性の高いユニークなテーマを掲げ、飯田にしかない or 飯田でしか得られない知識、技術、ノウハウを集積する。

(飯田工業高校後の有効利用)

- ・産学連携拠点

飯田地域を信州大学が積極的に関与する産学連携拠点のひとつに位置づけたい

- 多摩川精機を中心とする人工衛星および関連技術の開発

- 飯田市が積極的に取り組んでいる大規模太陽光発電システムのスマートグリッドへの展開、次世代エネルギー・システムのモデル地域(スマートコミュニティ)の実現 など

信州大学 田中先生 ③

プレゼン用自己紹介シート

脇若弘之

信州大学 工学部
電気電子工学科 教授

研究領域

力学量センサ
磁気センサの研究開発
極限の高感度・実用的センサの提案

リニアモータ・
アクチュエータの研究開発
高効率・高力密度モータの創生

磁気応用技術を
中核に産業分野
へ応用展開

シールド
極低磁界空間を身边に

エネルギー・ハーベスター
エネルギーの有効利用・環境との共生

信州大学 脇若先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

- ・信州大学大学院社会人飯田コース責任者として関わっている
- ・飯田市と信大工学部の連携協定実務を担当(2006年)
- ・飯田産業大学の講師(メカトロニクスを講義)を務めた
- ・飯田市内の企業との共同研究を20年近く前から推進してきた

信州大学 脇若先生 ②

プレゼン用自己紹介シート

信州大学大学院工学系研究科
教授 中島 厚

ご自身の研究領域などについて

・磁気軸受けの研究開発

電磁石・永久磁石併用型磁気軸受け。人工衛星姿勢制御用磁気軸受けフライホイールの開発・宇宙実証実験(1986年8月「じんだい」打上げ)。

・超小型衛星の研究開発

50kg級超小型衛星「おりづる」の打上げ(1990年)。30kg級信大衛星「可視光通信実験衛星」の開発と2013年度打上げ予定。

・宇宙ゴミの対策研究(観測及び除去)

年々増加する宇宙ゴミを光学望遠鏡(伊那市に設置)で観測し、宇宙環境を把握する。また使用済みロケット、人工衛星は導電性テザー等で軌道降下・大気圏突入による除去を行う。光学観測技術を応用して未知小惑星の探査(伊那市で実施)。

信州大学大学院 中島先生 ①



(1) モバイル制御特論
(2) 宇宙環境利用工学特論
(3) 小型衛星システム特論
(4) モバイル機器用高分子材料特論
(5) 航空工学特論
(6) 慣性航法機器特論
(7) サーボ機器特論
(8) モバイル制御応用特論

講義場所: 長野キャンパス又は飯田サテライト
TV会議システム(SUNS)

現在7名が在籍

モバイル制御講座教室(飯田)

多摩川精機(株)敷地内

信州大学大学院 中島先生 ③

プレゼン用資料1

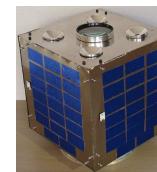
飯田との関わりや活動について

・寄附講座による社会人大学院生の指導

多摩川精機・萩本寄附講座が2008年4月に信州大学に開設され、飯田地区の社会人大学院生の受け入れ、講義を飯田サテライト(多摩川精機敷地内)で実施。

・信大衛星開発に飯田地区の企業が参加

2013年度にH-IIAロケットにより打上げ予定の信大衛星「可視光通信実験衛星」の開発に長野県内の企業と連携して開発を進めており、多摩川精機(株)、飯田航空宇宙プロジェクトが参加。



LEDを光源とする可視光を高速変調してデータを送信する光通信で、地上からは1等星程度の明るさで見る事ができる。その光を通して宇宙との交信を行うため、一般の人にも理解しやすい。衛星の姿勢を飯田地区に向ける事により、他の地域の人々からのメッセージや音楽を目で見える形で受取事が出来る(逆に他の地域の人々にも送る事が出来る)。

信州大学大学院 中島先生 ②

プレゼン用自己紹介シート

高崎経済大学 地域政策学部
教授 河藤佳彦

プロフィール(自己紹介)

- 大阪府の行政職として長年勤務し、産業・土木・地域開発などの分野で実務を担当。
- 専門分野は、地域産業政策論・中小企業論など。
- 早稲田大学政治経済学部経済学科、埼玉大学大学院政策科学研究科修士課程、大阪商業大学大学院地域政策学研究科博士後期課程(地域経済政策専攻)修了。博士(地域政策学)。
- これまでに、大阪府八尾市理事、大阪府企業監理課参事、高崎市商工業振興審議会会长などを務めた。
- 現在、高崎経済大学学術情報センター副センター長。

高崎経済大学 河藤先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動

共同論文作成への取組み(2011年度 ※前年度も実施)

目的: 実地調査を踏まえた共同論文作成への取組みにより、ゼミ生のコミュニケーション能力、研究能力、論文作成能力、プレゼンテーション能力を高める。

1. 事前研究(2011年6月～7月)、2. 実地調査(同8月)、
3. 実地調査の整理(同9月～11月)、4. 共同研究報告会(同12月)、5. 共同論文完成(2012年2月末予定)

飯田市におけるゼミの実地調査

飯田市の産業を地域の視点から捉え、地域資源を活かして自律的な発展を促進するための方策について考える。

高崎経済大学 河藤先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値

多様で豊かな産業資源の存在(ものづくり、観光資源、商業資源)

- ・多様で個性豊かな地場産業が共存する豊かな地域
半生菓子、水引、市田柿などのみならず、先端的な機械産業も地場産業として存在 ※先端産業を内発的発展に活用できる。
- ・豊かな観光資源(自然・産業・歴史・文化など)と、地域間交流を受け入れる仕組み(株式会社南信州観光公社)、成熟した農村コミュニティ(農家民泊、酪農農家体験などの受け入れ基盤)
- ・第三セクター(株式会社飯田まちづくりカンパニー)を活用したまちづくりなど

高崎経済大学 河藤先生 ③

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項

1. 地域資源を総合した地域ブランド戦略の可能性
ものづくり、特産品、観光資源(自然、産業、街並み、歴史、文化など)など ⇒ 農商工連携の活用可能性
2. 近隣地域と連携した産業クラスター戦略の可能性
航空宇宙分野、環境分野など
3. 第三セクターを活用した観光産業の可能性
株式会社南信州観光公社の事業(個人旅行の可能性など)
4. 第三セクターを活用した自律的なまちづくりの可能性
株式会社飯田まちづくりカンパニーの事業(ハード・ソフトを一體的に捉えたまちづくり⇒商店街・中心市街地の活性化)

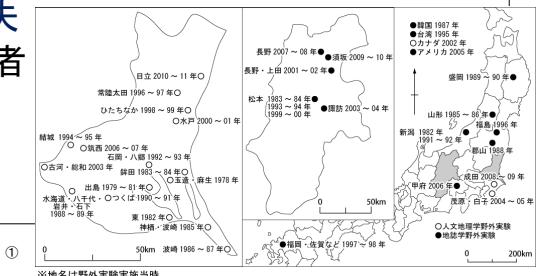
高崎経済大学 河藤先生 ④



教授 吳羽 正昭
助教 兼子 純
助教 山下亞紀郎

“地誌学”の研究領域

- ・ 筑波大学大学院生命環境科学研究所
「地誌学野外実験」での取り組み
- ・ 長野県の**盆地**における現地調査の蓄積
- ・ 三澤勝衛、市川健夫など偉大な地理学者を生み出す風土
- ・ 盆地の層序性



筑波大学 吳羽先生 兼子先生 山下先生 ①

※地名は野外実験実施当時

飯田との関わりや活動について

- 「自立都市圏」としての下伊那地域の研究
- 地理学を専門とする大学院生24名による**現地調査**(2011年10月, 2012年5月予定)
- 1週間の現地調査を2年間にわたり実施
- 土地利用図**をはじめとする調査・データ分析
- 丹念な聞き取り調査による**一次データ収集**
- 調査テーマ：農業の複合経営、野生動物による被害、農村空間の活用、治水と農業水利、観光農園の展開、服飾産業の変遷、中心市街地における商業機能の変容ほか

筑波大学 呉羽先生 兼子先生 山下先生 ②

飯田の評価や価値について

- 中心市街地における諸機能の持続性
- 農村・里山地域の観光
市内における都市住民と農村住民の交流
市民の週末レクリエーションの場
他地域住民のリゾート
- 飯田市の位置条件・自然条件の活用
相対位置:大都市から遠隔
周囲の山村を合併したことによる利益

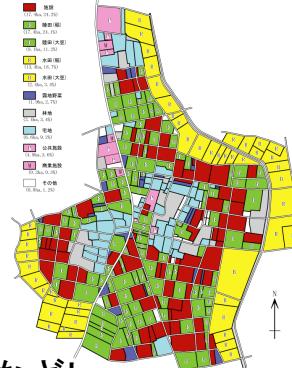
筑波大学 呉羽先生 兼子先生 山下先生 ③

飯田における今後の関心事項について

- 中心市街地における土地利用形態
- 都市住民の**生活行動**
- 交通体系の整備
- 飯田の**地域間交流**

三大都市圏、三遠南信
長野県内、
周辺市町村

- ローカルな**文化の継承とまなざし**
➡ 報告書「**地域研究年報**」の発刊(2013年2月)



筑波大学 呉羽先生 兼子先生 山下先生 ④

プレゼン用自己紹介シート

東京大学 大学院教育学研究科
教授 牧野 篤

自身の研究領域などについて

専門はもともと中国近代教育思想、今はそれに加えて社会教育・生涯学習を担当。
日本のまちづくりや高齢化と過疎化問題、中国・台湾のコミュニティ教育・少子高齢化問題などに関心がある。
最近では、自治体と一緒にになって公民館や生涯学習の共同調査を行ったり、多世代交流型コミュニティの構築を進めたり、さらには企業と一緒に「ものづくりの社会化」プログラムなどを運営している。
ざわざわとした雑踏のような研究室で、学生・院生ともども、がやがやと調査に出かけています。

東京大学大学院 牧野先生 ①

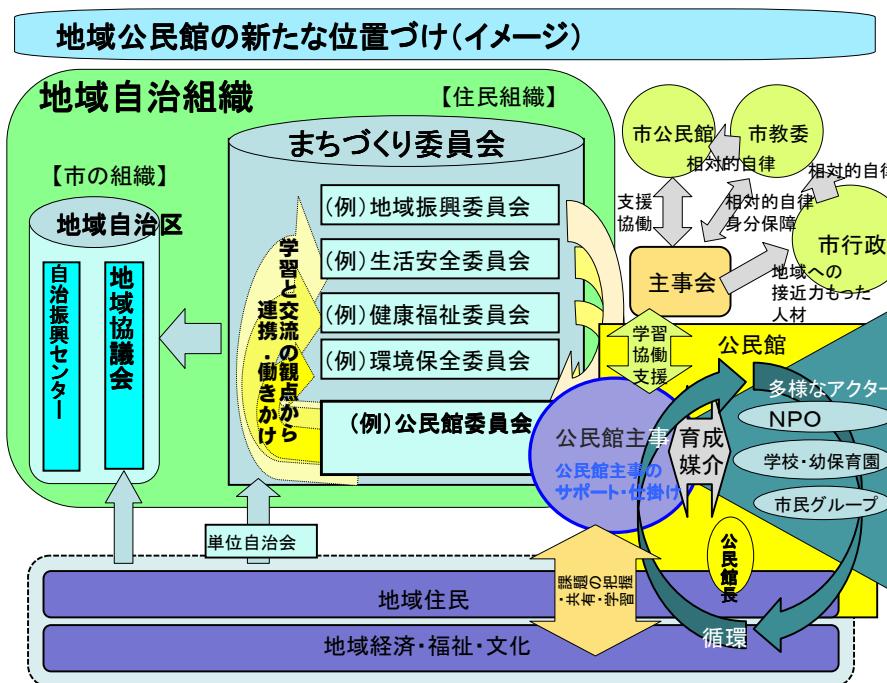
飯田との関わりや活動について

- ・学部ゼミの社会教育調査実習
- ・大学院ゼミの飯田市との共同研究：公民館の研究（公民館の役割・分館の実態・地域自治組織のあり方など）
- ・人生リバイバルプログラムの実験的実施

東京大学大学院 牧野先生 ②



東京大学大学院 牧野先生 ③

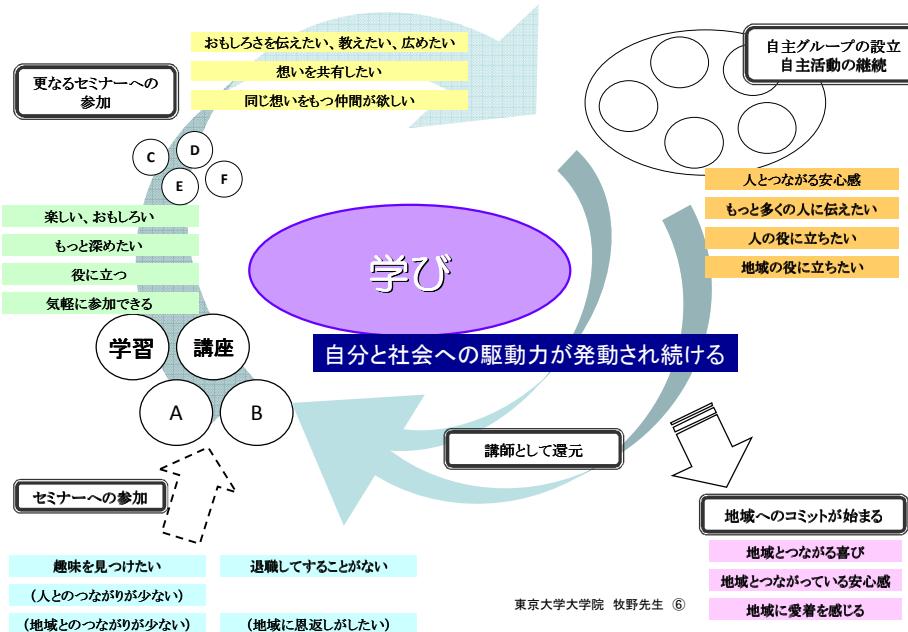


飯田の評価や価値について

- ・文化的豊かさ
- ・高い自立性・分権への志向
- ・選択と集中から分権と自律へ
- ・学びの風土
「学び」の過剰な循環の形成
- ・基層自治組織レベルのダイナミズム

東京大学大学院 牧野先生 ⑤

横断的変化・概念図:事後性と過剰性

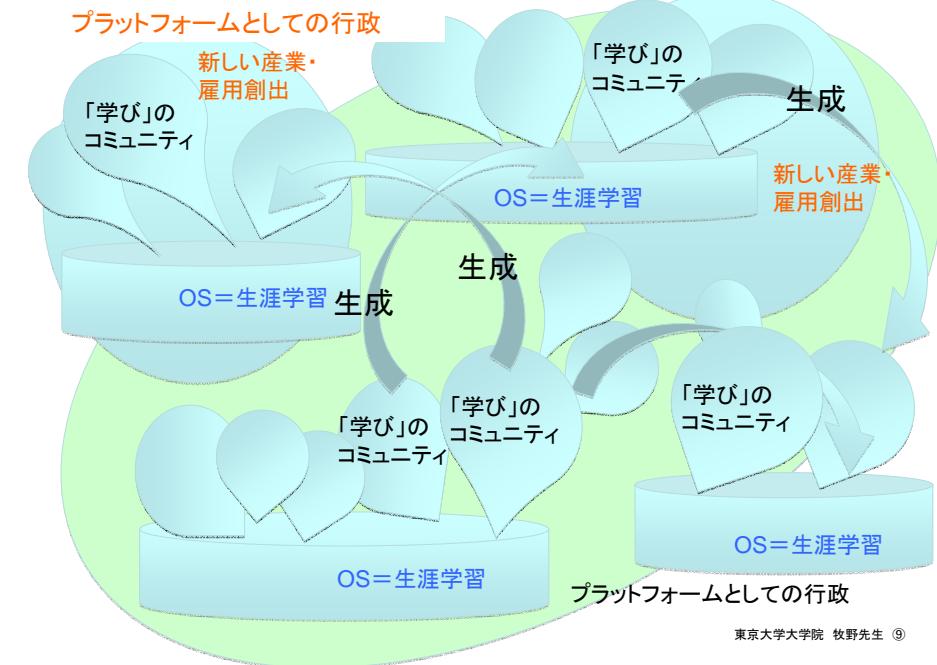
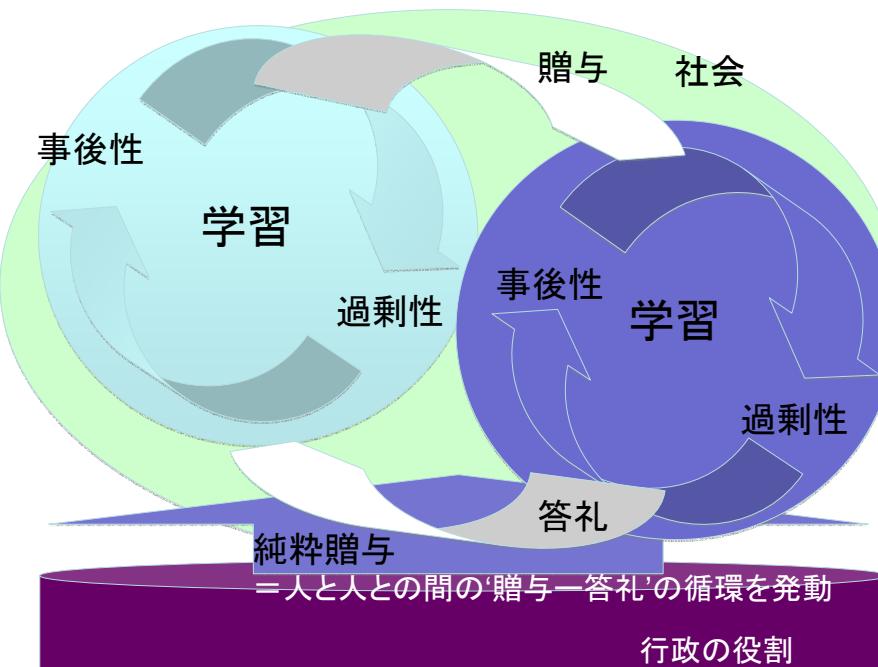


プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

- ・基層自治組織のダイナミズムがもたらす
新たな社会構造のあり方＝分権型社会の構造
- ・「学び」の構成による文化の生成と経済活動の創成
- ・社会の構造的变化に対応するコミュニティの構成の分析
＝「分配」から「生成」へ

東京大学大学院 牧野先生 ⑦



東京大学大学院 牧野先生 ⑨

プレゼン用自己紹介シート



東京農工大学
農学部
朝岡 幸彦

ご自身の研究領域などについて

- ・持続可能な開発のための教育(ESD)
- ・環境教育学
- ・社会教育・生涯学習論
- ・最近は、自治体財政分析の学習論も...

日本環境教育学会
事務局長

国連・持続可能な開発
のための教育の10年
(2005~2014年)

朝岡幸彦「市民がつくる財政白書の意味」、大和田一鉱編『市民が財政白書
をつくったら...』、pp.177~187、自治体研究社、2009年5月

東京農工大学 朝岡先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

- ・社会教育研究者とともに調査
鈴木敏正・姉崎洋一編著『公民館実践と「地域をつくる学び』北樹出版、2002年所
収
- ・社会教育・公民館関係者と交流を続ける
元『月刊社会教育』
(国土社)編集長
- ・東京農工大学関係者とともに調査に入る
- ・授業の一部を受け入れてもらっている



東京農工大学 朝岡先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

ムトス飯田

地域自治区
まちづくり委員会

学習する文化
(環境文化都市)

自治基本条例
基本構想・基本計画
中心市街地活性化基
本計画
中山間地域振興計画
...

東京農工大学 朝岡先生 ③

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

地域課題の発見と解決

まちづくり委員会
・公民館

自治体経営
条例・自治体計画

市民協働大学院
大学

学輪IIDA

東京農工大学 朝岡先生 ④

プレゼン用自己紹介シート

千賀 裕太郎

東京農工大学 農学研究院教授

研究領域・主著

・地域計画分野

内発的発展論、中山間地域振興計画

『農村計画学』(編著、この4月予定、朝倉書店)

『地域資源の保全と創造』(共著、農文協)

・水資源計画・水域生態学分野

『水資源管理と環境保全』(単著、鹿島出版会)

『水資源のソフトサイエンス』(同上)

東京農工大学 千賀先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

- ・飯田市とは、数年前に市長さんが「偵察」に来られたときから、密な交流が始まりました。
- ・社会教育の「メッカ」という名聲は耳にしていましたが、お付き合いするうちに、聞きしに勝る所であると感じられるようになってきました。
- ・土地利用計画に関する修士論文研究をさせていただき、とても良い勉強になりました。
- ・学科学生の実習もさせていただき、ますます、皆さんのふところの深さを実感しつつあります。

東京農工大学 千賀先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

- ・市長さん、市役所の職員の方、信金の方、農家の方、肉屋の方、カフェーの方……に、他の地域はない、共通な「何か」を感じます。飯田のどの人も「いつまでも語り合いたいなー」という気持ちを起こさせる「何か」です。
- ・飯田の「人」こそ大切な財産であることは確かです。でもまだ私にはその「何か」を的確に表現できません。もう少し時間がかかるかな?
- ・いま、かすかに見え始めていることをいうならば、私たち現代人にとって最も「大切なものの」「大切なこと」が、ここ飯田には、どうやらありそうだということです。

東京農工大学 千賀先生 ③

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

- ・地域のことが「わかる」というのは、(言わずもがなですが)平たい理屈での「わかった」を通り越して、「心からわかる」ということですね。
- ・私にとっての「関心」事項は、すでに述べてきたとおり、「飯田人」がどのようにして、形成されてきて、どのように再生産されつつあるかです。
- ・おそらくそれは、ある種の「地域活動」の中で、永く行われてきたものに違いありません。「その謎解き」こそ、私がやりたいことです。よろしくどうぞ!

東京農工大学 千賀先生 ④

プレゼン用自己紹介シート

土屋俊幸

東京農工大学 農学部
教授

ご自身の研究領域などについて

- 専門は、森林科学の一部門としての林政学。
 - 具体的には、自然資源管理論・観光レクリエーション論・保護地域管理論・比較森林政策論。
 - キーワードは、住民・市民、地域・コミュニティ。
- 学外での仕事
 - 林業経済学会 理事、(財)林業経済研究所 理事
 - 世界保護地域委員会日本委員会 監事
 - 「赤谷プロジェクト」のお手伝い
(自然環境モニタリング会議委員)
 - 日本自然保護協会・林野庁関東森林管理局・赤谷プロジェクト地域協議会の3者を中心とした生物多様性の復元と地域づくりを目的とした1万haの森林の管理プロジェクト。

東京農工大学 土屋先生 ①

プレゼン用資料1

飯田との関わりや活動について

- 7, 8年前に、周辺の町村も含めたグリーンツーリズムの調査に伺ったのが最初。
- 3年前から農工大として飯田市と連携して地域活性化を考えていくことになり、何回か伺う。
- 今年度、農学部地域生態システム学科の2つの実習(2年生、1年生)を急遽飯田市でやらせていただくことに。たいへんお世話になった。
- 現在、私の研究室の修士1年生が、グリーンツーリズム研究でお世話になっている。

東京農工大学 土屋先生 ②

プレゼン用資料2

飯田の評価や価値について

- 住民の皆さんがたいへん元気。
- 市職員の皆さんがたいへん良い仕事をしている。
- 皆、しっかり議論をする。
 - ↓
- 多様な分野での先進的な試み
 - 例:飯田式ワーキングホリデー、南信州観光公社
 - ↑
- 自治公民館運動、ムトス運動
- 自治体としての市の姿勢:現場・地域重視

東京農工大学 土屋先生 ③

プレゼン用資料3

飯田における今後の関心事項について

- 「ガバナンス」研究
 - 「良い自治」のしくみとその要因
- 飯田型グリーンツーリズムの評価
 - 南信州観光公社の役割・地域の機能
 - 農家の意識

☆森林管理、林業の活性化へのお手伝い

東京農工大学 土屋先生 ④

榎本弘行

- ・東京農工大学大学院・農学研究院 専任講師
- ・博士(法学)・工学修士(都市計画学)
- ・専門分野 憲法・環境法・土地利用法

いくつか関心事はあります、一つだけ述べたいと思います。

東京農工大学 榎本先生 ①

協働原則

複雑化する環境問題に対して公権的にのみ対応することは**もはや不可能**であるという強い認識。行政の専門的能力の限界、利害関係調整能力の限界の自覚。



不可避的に、市民・NPO団体・事業者を含め、国や自治体以外に環境関連の決定に関係する者の**あらゆる協働作用が活発に論じられている**。

(上記認識や自覚の下、国や自治体は、環境の十分な保護が市民によっては達成できない場合にのみ、活動を行うべきであるとされる)

・例えば、①条例策定の際に行われる聴聞、②事業者と自治体との協定、③事業者の自主規制、④許可手続前の事前折衝、⑤市民やNPO等の行政手続への参加、⑥環境情報へのアクセスの確保⑦環境保護に関する自治体の任務の民間への委託等

東京農工大学 榎本先生 ③

協働原則

ドイツの環境法の基本原則

協働原則(Kooperationsprinzip)とは、環境問題を解決するためにはあらゆる主体の適切な役割分担と協力が不可欠であり、様々な社会的勢力が環境政策の形成に参加できるようにする必要があるとする考え方である。

「あらゆる主体」には、**市民、環境団体、労働組合、学術・技術界、経済界**が挙げられる。

東京農工大学 榎本先生 ②

協働原則

しかしこの原則は、市民や事業者といった民間部門に**主体的に問題解決をしようとする素養や能力**があり、**議会や行政との協調性**があること前提とする。→ 国のレベルで採用されるに至っていない一つの理由。

飯田市の市民・NPO・事業者には、
そのような素養や能力が垣間見れる

↓
飯田市の取組を日本型の事例として着目している

・ 飯田市が環境モデル都市に選定された際牧野市長は、「今回の認定が、「多様な主体」による協働の取り組みのもと、環境と地域経済の好循環を推し進める契機となることを期待しています。」と述べている。

東京農工大学 榎本先生 ④